

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイリー西宮		
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		～ 令和8年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24(29)	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	今年度は、室内・屋外・外出活動や同法人内の関連施設との合同イベントを多く取り入れ、さまざまな経験ができる機会を提供している。年齢が違ってお友達と関わる中で、社会性やコミュニケーション力を育むことができる	毎週土曜日及び長期休暇時には外食活動・お買い物学習・公園(水遊び)・制作活動・クッキング・防災学習・工場見学等、様々な活動を取り入れている ・季節のイベントでは、同法人内の関連施設と合同で夏祭り・ハロウィンパーティー・運動会・クリスマス会などを行っている ・子ども達の意見を活動に取り入れ、イベントの計画を立てている	・今後も、子どもたち一人ひとりの興味や発達段階に合わせた活動内容を工夫し、室内・屋外・外出活動をバランスよく取り入れていく ・職員間での情報共有を大切にしながら、安全面に配慮した支援を行い、子どもたちが安心してさまざまな経験を積める環境づくりに努めていく
2	日々の支援の中で、子どもたちが将来自立した生活を送れるよう、自立に向けた取り組みを継続的に行っている	・学習プリントを活用し、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を日常的に取り入れている ・就労を見据えた作業や、指先を使った活動を取り入れ、集中力や作業遂行力の向上を図っている ・おやつの中には100円分の中で電卓を使ったり、自分で考えながら選ぶ経験を通して、金銭感覚や判断力を育んでいる	・今後も自立に向けた支援を継続し、学習プリントを活用したSSTや就労を見据えた作業内容の工夫を進めていく ・また、金銭のやり取りや選択の機会を日常の活動に取り入れ、実生活に活かせる力の定着を図っていく
3	写真や動画を交えたInstagramでの発信に加え、ラインや送迎時の対面でのやり取りを通して、日々の様子やご相談について随時対応している	・写真や動画を交えたInstagramを通して、日々の様子を発信している ・ラインや送迎時の対面でのやり取りを通して、日々の様子やご相談について随時対応し、保護者の方との丁寧な情報共有を大切にしている	今後も、写真や動画による情報発信や、LINE・送迎時の対面でのやり取りを大切にしながら、より分かりやすく丁寧な情報共有に努めていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門資格を有する職員は配置しているものの、理学療法士や言語聴覚士、心理職など、より専門的な分野の職員配置には至っておらず、多職種による専門的な視点を十分に支援へ反映できていない点が課題となっている	専門職員の確保が難しい状況もあり、これまで具体的な配置に向けた検討や体制づくりに至っていなかったことが要因と考えられる	現時点では配置は行っていませんが、今後の支援内容や利用児の状況を踏まえ、必要に応じて外部の専門職から助言を得るなど、専門的な視点を支援に取り入れていくことを今後の課題としていく。また、職員研修等を通じて支援の質の向上に努めていく
2	非常勤職員に対して、常勤職員と同様の研修への参加が難しいことがある	それぞれの事情があり、勤務日以外の参加が難しい	事業所内研修に関しては、参加できる範囲で参加するように促す
3			